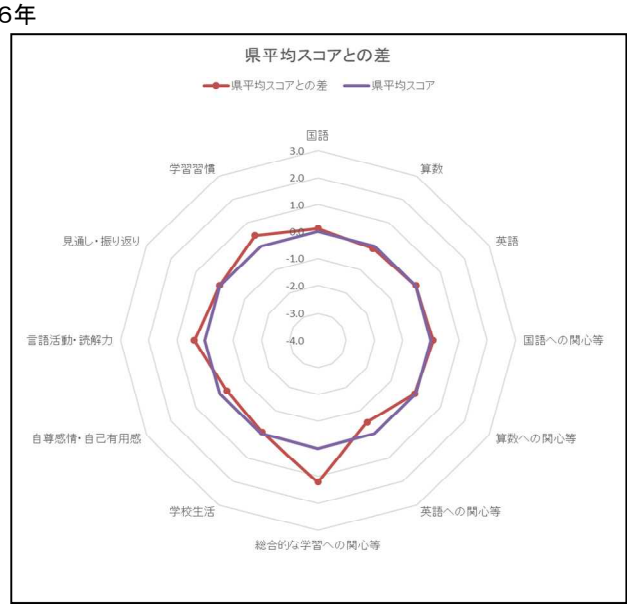
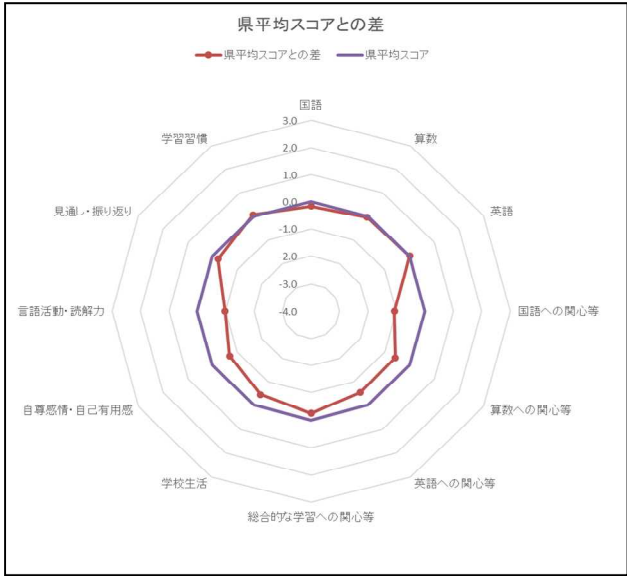


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立玉湯小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字やローマ字を正しく書く問題の正答率が県平均を上回っており、漢字やローマ字の練習に真面目に取り組んでいると考える。 ●同音異義語の漢字を書き間違える児童が多い。 ●複数の文章を比べて読み、自分の考えをまとめて書く記述式の問題の解答率が特に低い。	・漢字の意味を理解し、ノート記入等の際に文章の中で正しく書けるように指導する。 ・調べ学習等の機会も活用し、資料や調べたことからわかること、自分の感想や考えを区別して書く活動を多く取り入れる。
	算数	○「量と測定」「図形」領域の正答率が県平均を上回っている。 ●小数×小数、小数÷小数、異分母帯分数の足し算・引き算の意味理解や計算に課題がある。 ●記述式活用問題の無回答率が43.9%と非常に高かった。	・小数や、分数を使った計算の意味理解について復習し、チャレンジタイム等を活用して繰り返し練習して、技能の定着を図る。 ・活用問題と既習事項との関連について考える時間を設定し、問題の意図をとらえて問題を解くことを指導する。児童の実態に合わせて問題を選び、根気強く取り組む。
6年	国語	○記述式の問題も含め無解答率が大変低く、粘り強く取り組む意欲が育っていると考えられる。 ●同音異義語の漢字を書き間違える児童が多い。 ●修飾語・被修飾語の関係の理解が不十分である。 ●「話す・聞く」の領域、特に複数の意見の共通点を整理してまとめることに課題がある。	・漢字の意味を理解し使い方を考えながら漢字を書いたり、主語と述語、修飾語と被修飾語などの語と語のつながりに注意したりして文章の中で適切に漢字や言葉を使うよう指導する。 ・友達の見解の共通点・相違点に気を付けながら聞き、複数の意見をまとめていく活動を行う。
	算数	○「数と計算」の領域、特に分数の計算の正答率が県平均を上回っている。 ●「算数の勉強は好きだ」と答える児童の割合が、4月より減っている。難しさを感じているのではないか。 ●割合や比の考え方を使って文章題を解くことに特に課題がある。	・児童の興味関心を高める問題提示の仕方や工夫について見直し、考えを交流させて深めることにより達成感が得られるような授業展開を考える。 ・数量の関係を図で適切に表す活動や、かかれた図から関係を読み取る活動を取り入れる。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	57	57
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 66 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	53	56
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 63 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○約90%の児童が、「授業のねらいがきちんと示されている」「ノートにまとめを書いている」と答えており、授業のスタイルが定着している。 ●発表や話し合い活動、調べ学習への取り組みなどについての肯定的な回答が県平均を下回っている。	・自分の考えを根拠がわかるように説明したり、質問したり答えたりする活動に根気強く取り組む。 ・図書館を活用し、資料を収集・比較・選択し、わかったことや自分の感想・考えを表現する一連の活動を授業に取り入れる。
	家庭学習に関わる事項	○自分から勉強するという項目については80%、宿題をするという項目については95%の児童が肯定的な回答をしており、真面目に宿題にとりくんでいる。 ●県平均を上回ってはいるが復習をする児童は60%、予習をする児童は40%である。	・宿題に真面目に取り組む意欲を生かし、「今日学習した○○について、さらに調べる」「明日学習予定の○○について、知っていることを書く」「資料を前もって読み疑問点を書く」など、宿題のテーマを工夫し、自主的な学習につなげる。
6年	授業改善に関わる事項	○調べ学習、発表や話し合い活動の実施についての肯定的な回答が県平均を上回っている。 ●地域や社会の問題への関心、算数の学習の活用などに対する肯定的な回答が県平均を下回っている。	・各教科の学習内容を身の回りの生活や社会・自然環境等の問題に結び付けて考えらえるような投げかけを行ったり、学習したことを根拠にして問題に対する自分の考えを書いたり話したりする機会を設けたりする。
	家庭学習に関わる事項	○宿題・復習をする、自分から勉強するという項目について、80%以上が肯定的な回答をしている。基本的な学習習慣が身についている。 ●平日1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童の割合が4月より減っている。携帯電話の使用時間が1時間以上の児童が30%を超えること等とも関連させて考える必要がある。	・携帯電話の使用時間と学習への取り組み方の関連について、実態の見直しをする。 ・自主的な学習の題材や取り組み方について指導し、個々の取組の様子を紹介し合うことにより、進んで学ぶことの楽しさを味わうことができるようにする。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

